

堺の“まち”文化の再発見、再生、創造、魅力情報発信

市民活動団体“堺なんや衆”
理事 事務局長 前田秀一

1. 活動方針 目的

- ①方針: 会員が、個々に自分の“思い”を「会」に提案し、方針決定し、提案者のリーダーシップのもと「会」の総意を掲げて“形”にするプラットフォーム
- ②目的: 堺の“まち”文化を題材として再発見し、「堺」の魅力として再生、創造し、情報発信して「堺」のまちづくりを提言する。

2. 活動内容

①友好都市・連雲港市との市民交流のあり方の提言(平成15年度)

堺市・連雲港市友好交流20周年事業を、市民参加型へ転換することを目的として、堺市民と連雲港市民に共通する文化テーマ「堺の弥生文化の成立と徐福伝説」を主題としたシンポジウムの開催を提案した。堺における弥生文化の成立と連雲港市に生誕した方士・徐福の伝説に関して勉強会(参加者:200名)を主催し、開催当日「シンポジウム」の運営に協力した。

②堺の伝統文化「堺大魚夜市」の再生提言(平成16年度)

室町時代から続く伝統の“まつり”「堺大魚夜市」の再生を目的として、故事に習い、かつて堺の浜に上がった桜鯛を奉納したと伝わる奈良・春日大社を起点(1月24日)に奈良街道、山野辺の道、竹内街道を4回に分け、「堺大魚夜市」開催当日(7月31日)、会場(堺市・浜寺公園)到着を目指したウォークキング・ラリーを主催した。途上、由緒ある史蹟で各地域ボランティア団体と交流し、案内・説明をお願いし参加した市民(参加者:260名)に道中の故事来歴および古の都を支えた堺の歴史と文化再発見の機会を提供した。

③堺のアイデンティティ「CHA(茶)の心」再発見の提言(平成17年、18年度)

当会顧問・角山 榮和歌山大学名誉教授提唱による「CHA(茶)の心」の理念を原点に立ち返って学び、実践に移し「堺のアイデンティティ」として提言する活動を継続中。

*: CHA: Communication(ふれあい)、Hospitality(もてなし)、Associate(人間関係形成)

●平成17年度: 堺の茶人と文化の原点を考える「CHA *文化セミナー」主催

「CHA(茶)の心」の実践の場として開設した「寄り合い文化席」の第1回目に、400年前に遡って堺と縁のある伝統芸能“仙臺すずめ踊り”との出会いがあり、実践団体と協働して堺市へ縁の文化として紹介提案し、今日、堺市と仙台市相互交流事業として育成した。

●平成18年度: 茶会でつなぐ“堺”と世界-“堺”発“もてなし”茶会」の実践・提言

「人間関係形成」の場から形而上的命題「和敬清寂」、「一期一会」が生まれ、その具現化として“茶の湯”の文化が大成されたことを再発見した。“CHAの心”の現代的実践の場として世界のお茶でもてなす「寄り合い文化席」を開設し世に問う活動を継続している。

④地域コミュニティを再生する「まちづくり」の提言(平成19年度)

古来、“むらづくり”、“まちづくり”として伝わる伝統的な堺の「祭」と世界的な自治・自由都市であった中世の「堺」に往来した多くの人々が地方に伝えた文化の事例から、現代に“まちづくり”、“人づくり”として活かせる「地域コミュニティづくり」のあり方を提言する。

3. 今後の課題等

- ①「文化」を主題とした活動では、会員の価値観の共有性と関心および協調性の高揚が課題。
- ②今後、地域づくりへの配慮としては、提案事業への助成制度の整備が必要である。



堺の“まち”文化の再発見、 再生、創造、魅力情報発信

市民活動団体 “堺なんや衆”

(名前の由来：堺の“納屋衆”)

設立：平成13年4月1日 会員：25名(平成20年3月)

理事・事務局長 前田秀一

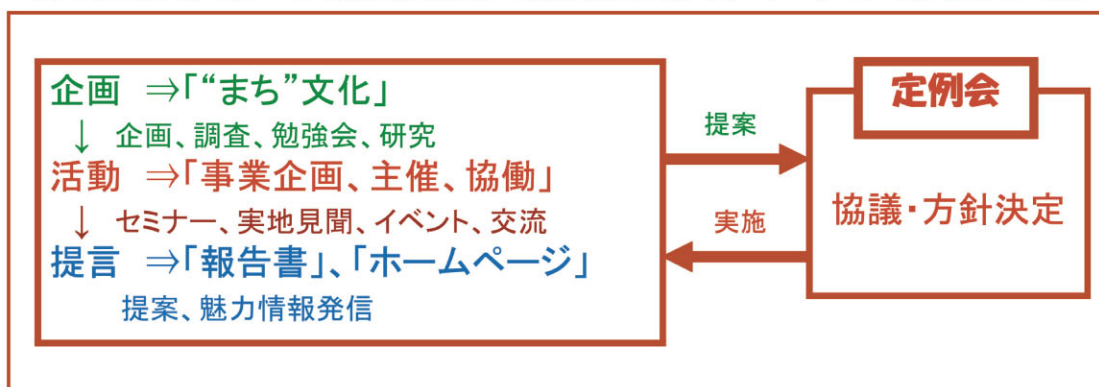
活動目的：

堺の“まち”文化の再発見、魅力再生・創造、情報発信

運営方針：

会員が、自分の“思い”を形にするためのプラットフォーム

個々に自分の“思い”を「会」に提案し、「会」の賛同を得てリーダーシップを発揮する「場」



「協働」提案事業(平成15年度)

郷土文化をテーマとした市民参加による友好都市交流の底辺拡大



連雲港市友好提携周年記念事業

・20周年(平成15年):交流テーマ「堺の弥生文化の成立と徐福伝説」

「徐福伝説」勉強会開催(5回)、シンポジウム運営協力 参加者:計418名

・25周年(平成20年):交流テーマ「茶」(CHA)の文化」(11月連雲港市にて)

堺:「茶の湯」の文化大成の町 連雲港市:茶の生産地(雲霧茶、徐福茶)

文化庁「関西元気文化圏」参加事業(平成16年度)

故事の現代への蘇りを活かした伝統文化「堺大魚夜市」の再生



故事:・住吉神社の夏越祓神事神輿頓宮御渡りの前夜大浜の海岸に魚市が立った

・堺の浜で上がった桜鯛が奈良・春日大社に献納されていた

・堺魚屋・弥次郎が春日大社に寄進した灯籠が記帳され、現存する

主催事業:「奈良・春日大社から“堺大魚夜市”へ一歩いて学ぶ“堺”への歴史街道」

春日大社(1月)⇒(奈良街道)⇒櫻井神社(3月)⇒(山の辺の道)⇒長尾神社(5月)

⇒(竹内街道)⇒金岡神社(7月)⇒堺大魚夜市会場

参加者:計261名

「堺の魅力づくり」市民自主事業(平成17年度)

文化庁「関西元気文化圏」参加事業



堺のアイデンティティー「CHA(茶)の心」の見聞、学習



主催事業:堺の茶人たち 茶の文化の原点を考える「CHAの文化セミナー」

「CHAの心」の理念:堺市博物館 角山 榮館長提唱

ふれあい(Communication)、もてなし(Hospitality)、人間関係形成Associate

●“まち”歩き:お茶菓子舗、お香・線香店、鉄砲・刃物鍛冶、南宗寺・環濠境界

●セミナー:武野紹鷗、山上宗二、千道安、茶道具、CHA文化 参加者:計813名

「堺の魅力づくり」市民自主事業(平成18年度)

文化庁「関西元気文化圏」参加事業



堺のアイデンティティー「CHA(茶)の心」の実践、提案



主催事業:世界の茶の文化講座—煎茶、抹茶、中国茶、紅茶、韓国茶、チャイ

「茶会でつなぐ“堺”と世界」 “堺”発「もてなし茶会」を目指して

●実践お茶席開設:「寄り合い文化席」 “仙臺すずめ踊り”との出会い

桜花見(旧天王貯水池)、さつきまつり(開口神社)、南蛮ガラクタ市(大小路境界夢倶楽部)

●お茶席しつらえ講習:お茶菓子づくり

参加者:計795名

堺の魅力づくり」市民自主事業(平成19年度)

文化庁「関西元気文化圏」参加事業



「祀り」の文化を「まつり」へ 地域コミュニティづくりの再生



主催事業:「祭り」の文化講座—本質と時代による変遷、事例、その活かす道
農耕社会(自然の恵み)から工業化社会(人工)へ 人の「和」から「個」へ
今、再び、人のつながり(Sociability)の再構築(まちづくり)を求める時代
“絆”として、「祀り」の文化(伝統行事、伝統芸能)を活かす時代

提案事業:堺に縁ある“仙臺すずめ踊り”の紹介、普及、仙台市と文化交流

「関西元気な地域づくり」事例紹介:

合言葉:人が輝き! 地域を元気に! 「堺・仙台“すずめ踊り”交流事業」



「堺まつり」堺(緑)・仙台(赤)“すずめ”乱れ踊り 「仙台青葉まつり」堺市・指吸副市長 仙台市・梅原市長

今後の課題:

1. 会員の問題意識と価値観の共有、チームワーク
2. 提案事業の評価と助成制度の整備(NPO, NGO)と継続